

研究構想シート	学校名	奥出雲町立亀嵩小学校
	氏名	大島 辰哉
A 研究主題 人との関わりの中で、互いの考えを豊かに伝え合う児童の育成 ～国語科（話し合うこと）の実践を通して～		
B 研究の目的 児童が話し合う力を付ける話し合いのあり方と授業展開を明らかにする。		
C 子供の实態 話し合うことについて 複式学級で、学習リーダーを中心に学習を進めるガイド学習が定着しており、子供たち自身で学習を進めていこうとする雰囲気醸成されている。 複式学級でない学級においても、学習リーダーを中心に学習することを経験したり、複式学級の学習の様子を見学したりして、自分たちで学習を進めていくということについて身近に感じている。 進行のやり方によって話し合いを進めることはできるが、意見が出揃った後に、共通点や相違点を見出し、話し合いをまとめたり、考えを広げたりすることについては、十分に力が付いていない。 また、ソーシャルスキルアップを目的とした全校一斉の「かめっこタイム」により、丁寧な言葉で会話したり、相手の話に相槌を打ったりするなどの、反応を返すことについては力が付いてきているが、友達の話を受けて会話をつなげることには課題がある。	E 手立て・内容（研究仮説） 話し合いにおいて ・話題の工夫 子供にとって必要感がある、話し合いたいくなる話題を設定する。 ・話し合いの型をつかむ工夫 デモンストレーション、話し合いの進め方（進行表）、教科書の追体験など ・言葉の力の可視化 話し合いの系統を作成し、既習の内容や身に付けたい力を児童が確認できるようにする 授業において ・課題の焦点化 めあて、発問、指示、問い返し等で、子供たちの思考が本時のねらいに向かうようにする ・思考の視覚化 チョークの色の使い方 よいところ、相違点と共通点、利点や問題点など、着目すべきポイントが子供たちに見えるようにする ・学習の流れのパターン化 めあてをつかむ→（話し合いに向けて計画を立てたり準備をしたりする）→話し合い（言語活動）→話し合い（言語活動）について振り返る☆焦点化された課題→学習のふりかえり 日常的な指導場面において ・ペアトークやスピーチ等、全校朝の会で話したり聞いたりする場を設ける（研究部：2学期以降？） ・児童総会、代表委員会等、全校の児童が話し合いに参加する場を設ける（児童会担当）	D めざす子供の姿 学校教育目標 「ふるさとを愛し 夢と未来に向かって 主体的に生きる児童の育成」 CS国語「話すこと・聞くこと」（話し合うこと） 低学年：互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと 中学年：目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること 高学年：互いの立場や意図を明確にししながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること 学校として 低学年：ペアや少人数のグループで、互いの話に関心をもち聞き、相手の発言を聞いて質問したり、復唱して確かめたり、共感を示したり、感想を言ったりして話をつなぎ、話がつながる楽しさやよさを実感する。 中学年：少人数のグループや学級で、話し合う目的や目指す到達点、話し合いの進め方などを確認して話し合いを進める。最終的に考えが1つにまとまらない場合は、どのような意見が出されたか、どのような点で考えが異なっているか、今後どのように話し合いを進めると良いかを確認する。司会者は、最初は進行表に沿って進行し、徐々に参加者に発言を促したり、発表の共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめたりすることができるようにする。司会者、提案者、参加者は、それぞれの役割を理解し、話題に沿って発言しているか、話し合いの流れを踏まえているかを、適時判断しながら話し合いを進める。 高学年：学級や学校全体で、考えを1つにまとめるのか、互いの考えを広げたりまとめたりするのかという目的や、内容、順序、時間配分を検討し、議題に対して賛成、または反対などのそれぞれの立場を明らかにした上で、話し合いを進める。
	F 検証方法 事前・事後のアンケート ※低・中・高で系統性のあるアンケート 学力調査の結果と、年度末もう一度解いてみた結果の比較 研究授業・研究協議を通じた有効な実践の検証	
	G 研究計画 4月：研究職員会議：校内研究の手立て等について協議→校内研究の概要完成（研究主任） 5月：進行表作成、言葉の力、アンケート作成（研究部） 高学年研究授業、研究協議（研究職員会議） 6月：（※6年目研修、研究授業？） 7月：4年生研究授業、研究協議 8月：ペアトーク、スピーチ等、2学期以降の取組について協議・準備（研究部） 9月： 10月：1年生・3年生研究授業、研究協議（学校訪問指導） 11月：2年生研究授業、研究協議 12月～1月：研究集録の作成（各担任） 2月：研究のまとめ→研究集録作成 3月：発表資料作成開始	